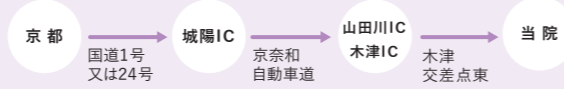


お車でお越しの方へ



1 京都方面からの来院



2 大阪方面からの来院



■ 駐車料金について

外来診察の方

正面、第2、第3:入庫から8時間無料

ご家族・お見舞いの方

正面:入庫から30分無料 以降60分200円 最大500円
第2:入庫から4時間無料 以降60分200円 最大300円
第3:入庫から60分無料 以降60分200円 最大500円

■ 院内駐車場の利用制限について

平日正午までは、妊婦、身体障害者、高齢者等の方のご利用を優先させていただきます。

■ 送迎車について

第二駐車場から病院まで無料で送迎車を運行しております。(運行時間は午前7時30分から午後3時まで)

公共交通機関でお越しの方へ



1 JR木津駅西口から 徒歩1分

JR

- ・ JR京都駅から JR奈良線 約38分 (みやこ路快速)
- ・ JR大阪駅から 大阪環状線～大和路線 約59分(大和路快速)
- ・ JR天王寺駅から JR大和路線 約42分 (大和路快速)
- ・ JR京橋駅から JR学研都市線 約60分 (区間快速)
- ・ JR奈良駅から JR大和路線 約7分

近鉄

- ・ 近鉄京都駅から 近鉄京都線 約29分 (急行)
新祝園駅のりかえJR学研都市線 約6分
- ・ 大阪難波駅から 近鉄奈良線 約30分 (快速急行)
大和西大寺駅のりかえ近鉄京都線 約10分 (急行)
新祝園駅のりかえJR学研都市線 約6分
- ・ 近鉄奈良駅から 近鉄奈良線～京都線 約17分 (急行)
新祝園駅のりかえJR学研都市線 約6分

2 近鉄山田川駅から

奈良交通バス約10分 JR木津駅前下車 徒歩1分



令和5年度

診療科 ご案内



R5.7.1 発行



目次

目次・院内マップ 01
 はじめに 02
 外来受診について 03
 地域医療支援病院について 04

⑨受付 消化器内科 05
 循環器内科 06
 腎臓内科 07
 糖尿病・代謝内科 08
 リウマチ科 09
 呼吸器内科 10
 総合内科 11
 小児科 12
 泌尿器科 13

⑧受付 脳神経内科 14
 呼吸器外科 15
 消化器外科 16

⑧受付 乳腺外科 17
 小児外科 18
 整形外科 19
 脳神経外科 20

麻酔科 21

⑩受付 放射線科 22

⑬受付 産婦人科 23

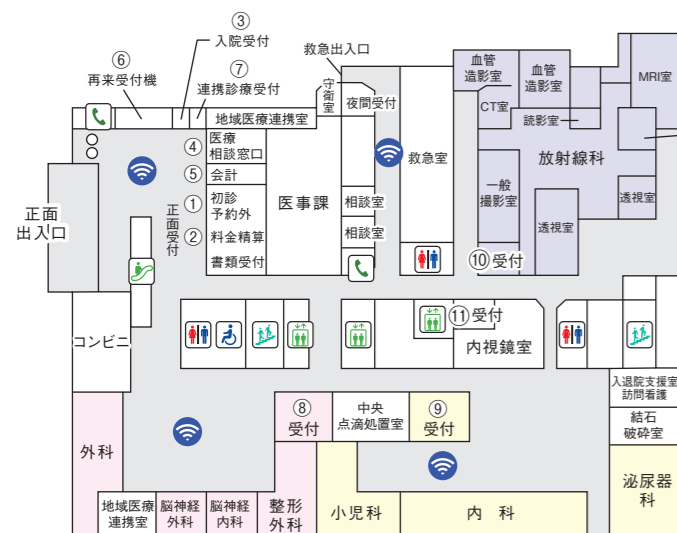
⑭受付 眼科 24
 皮膚科 25
 耳鼻咽喉科 26

⑰受付 リハビリテーション科 27

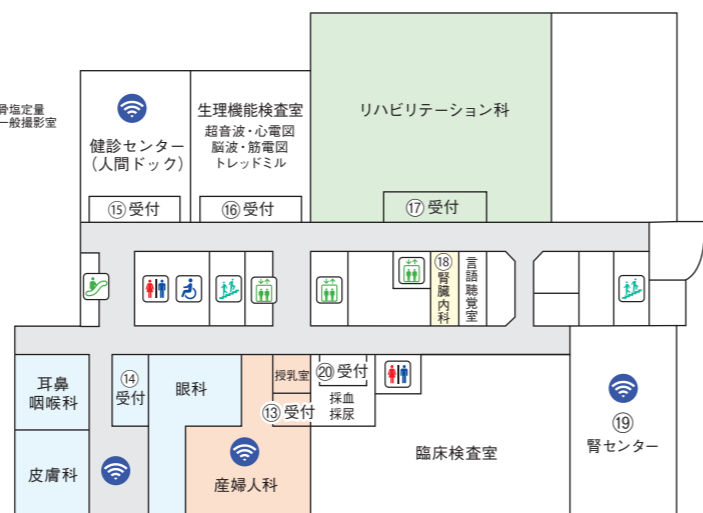
回復期リハビリテーション病棟 27
 健診センター 人間ドックのご案内 28
 がん・脳卒中・認知症 相談窓口のご案内 29
 地域との連携体制について 30

院内マップ

1F



2F



1F コンビニ営業時間

平日 午前8時～午後5時30分
 土日祝 午前10時～午後3時30分

- ・外来化学療法室は地下1Fになります。
- ・当院では、一部のエリアで無線LAN(Wi-Fi)を整備しています。ご利用の際は、利用規約に同意のうえ、ご自身の責任においてご利用ください。
- ・病院敷地内は、全面禁煙です。

- トイレ
- 身障者用トイレ
- エレベーター
- 公衆電話
- エスカレーター
- Wi-Fi
- 階段

はじめに

病院基本理念

地域の中核病院として、
 信頼される良質な医療を提供し、
 住民の健康維持・推進に貢献する

病院基本方針

- 地域医療支援病院としての機能や体制を整備し、質の高い地域医療を実現する。
- 地域がん診療病院、地域災害拠点病院、周産期医療2次病院としての機能を充実させる。
- 地域の医療機関や福祉・介護施設との連携を強化し、より良い地域包括ケアシステムの構築に貢献する。
- ホスピタリティの向上に努め、患者さん満足度の高い医療を提供する。
- 医療安全管理の徹底をはかり、安心して医療を受けられる体制を堅持する。
- 教育・研修を通じて優れた医療人を育成するとともに、各職種の連携によるチーム医療を推進し、高度な医療を提供する。
- ワークライフ・バランスを考慮した、働きがいのある職場環境づくりに努める。
- 公益性を求めつつ、長期にわたり良質な医療が提供できるよう健全な経営基盤を確立する。

患者さんの権利と責務

- 診断や治療方針について十分な説明を受けることができます。
- 自分の意志に基づいて医療の方法を選択することができます。
- 適切な医療を公平に受けることができます。
- 診断や治療方針について他の医療機関に意見を求めることができます(セカンドオピニオン)。
- 個人情報は十分な配慮をもって保護されます。
- 医療を受けるうえで、常に自己の尊厳性は尊重されます。
- 自分の健康情報を医療者に正確に伝える責務があります。
- 医療が安全かつ効果的に行われるよう、医療者と力を合わせて積極的に医療に参加し、協力する責務があります。
- 病院の秩序を守り、医療を受けるうえで他の患者さんや医療者の支障とならないよう行動する責務があります。



外来受診について

当院は原則、予約診療となっております。

診療科によって当日受診できない場合もありますので、予めご了承くださいませようお願いします。

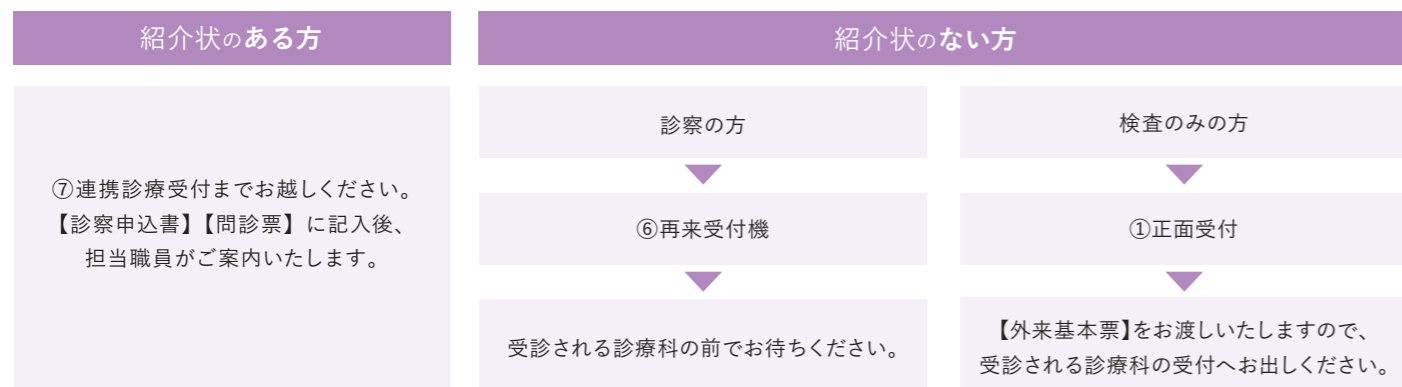
- 受診の際は保険証またはマイナンバーカード・各種医療証を持参の上、必ず受付にご提示ください。
- 保険証に変更があった場合や、ご住所・ご連絡先に変更が生じた場合は必ず受付にお申し出ください。

予約センター

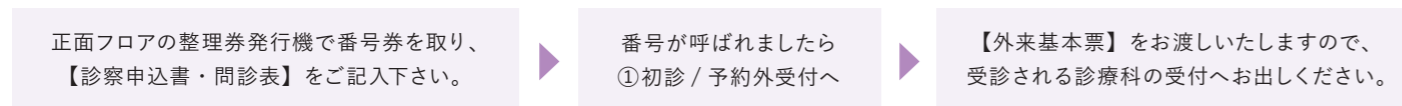
☎ 0774-72-2314

受付時間 平日 午前9時～午後4時

予約のある方



予約のない方



2016年4月の健康保険法改正により、200床以上の地域医療支援病院(当院該当)は、他医療機関からの紹介状を持たない初診の患者さんから選定療養費として診療費のほかに7,000円以上の金額を徴収することが義務化されました。

この制度に基づき、当院では、「初診時選定療養費」として7,700円(税込)を徴収しております。

また同法改正により、病状が安定し、他院へ紹介させていただいた患者さんが、紹介先の医療機関からの紹介状を持たずに再び当院を受診された場合には「再診時選定療養費」として3,300円(税込)を徴収しております。

紹介状をお持ちでない急を要しない時間外を受診(※)、当院通院中の患者さんが院内紹介でなく他の診療科を受診された場合にも、初診時選定療養費がかかります。

※医師が急を要すると判断した場合には、選定療養費はかかりません。

※次に該当される場合は徴収対象外となります。

- ・他の医療機関からの紹介状をお持ちいただいた場合
- ・特定検診、がん検診等の結果により精密検査の指示があった場合
- ・受診後、そのまま入院した場合
- ・生活保護法による医療扶助の対象である場合
- ・特定疾患または障害等の各種公費制度受給対象である場合(乳幼児医療、ひとり親家庭医療は対象外)
- ・治験協力者である場合
- ・災害により被害を受けた方が受診する場合
- ・労働災害、公務災害、交通事故、自費診療の場合

- 初診受付は、午前8時30分～午前11時30分までです。(診療科によって異なる場合があります)
- 診療担当医師につきましては、休診・代診等の場合もありますので、詳しくは当院までお問い合わせください。

休診日：土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

※休診日は救急診療のみとなります。病状によっては対応できない場合もございますので、事前に電話でお問い合わせの上ご来院ください。

地域医療支援病院について

当院は、「地域医療支援病院」です。

「地域医療支援病院」とは、地域の「かかりつけ医」から紹介のあった患者さんに対する医療の提供、地域の医療機関と医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対するスキルアップ研修の実施など、地域医療の充実を図る病院のことです。今後も引き続き、地域の皆さまに、より安心・安全な医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

連携診療を推進しています

当院では、「かかりつけ医」との連携を密にし、それぞれの特徴を活かして診療にあたることで、地域の皆様がより安心した暮らしができるようにと考えています。普段の診療は「かかりつけ医」で、必要な時はいつでも「かかりつけ医」からの紹介で当院を受診いただけます。

かかりつけ医とは？

ご自身の日常的な診療や健康管理をしてくれる地域の医師のことです。



かかりつけ医をもつメリットは？

- 1 一人の医師に継続的にかかることで、ご自身の病歴や体質・生活習慣などをふまえた診療を受けることができます。
- 2 当院受診の際に「かかりつけ医」から紹介いただくと、スムーズに検査や診察を受けることができます。
- 3 入院や検査などが必要な場合、適切な病院・診療科を紹介できます。

かかりつけ医からの紹介状をご持参ください

当院受診の際には「かかりつけ医」からの紹介状をご持参ください。紹介状がない場合は、通常の診療費の他、初診時・再診時にかかる「選定療養費」が必要となります。

かかりつけ医相談窓口を設けています

「かかりつけ医」を持ちたいがどうすれば良いかわからない。自宅近くで「かかりつけ医」を探したい。通院が大変になってきたので「かかりつけ医」に紹介して欲しい。など、患者さんと「かかりつけ医」を繋ぐお手伝いをさせていただきます。ご相談は、1階 ④医療相談窓口で承っています。

消化器内科

必要な検査・治療を、迅速・的確・安全に!!

消化器内科の常勤4名は、全員が消化器病学会・消化器内視鏡学会専門医を取得しており、必要な検査・治療を迅速・的確・安全に行えるように日々心掛けています。

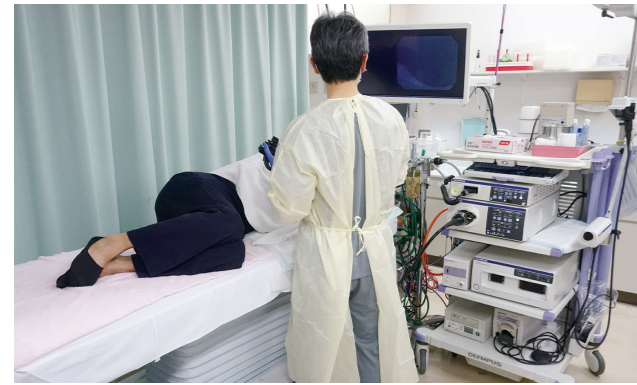
主な対象疾患

- 上下部消化管や肝胆膵の腫瘍性疾患
- 胃潰瘍、総胆管結石、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）等の非腫瘍性疾患

診療科の特徴

病診連携、救急医療にも力を入れています。

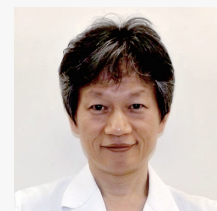
標準的な消化管、肝胆膵疾患に対する内視鏡検査・治療はカバーできています。令和5年4月から消化器内科志望の内科専攻医が1名、新たにスタッフに加わりました。



診療実績

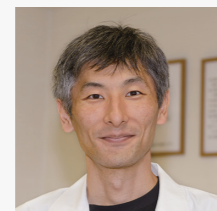
治療項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
上部消化管内視鏡	3,192	3,658	3,746
食道・胃粘膜下層剥離術 ESD	33	36	39
大腸内視鏡	1,332	1,598	1,535
大腸ポリープ切除術・EMR	270	352	351
大腸粘膜下層剥離術 ESD	8	12	18
胆膵内視鏡（検査、治療の合計）	240	291	255
上下部・胆膵内視鏡総件数	4,764	5,547	5,536
経皮的肝生検	8	15	12
経皮的ラジオ波焼灼術	13	3	6
肝癌に対する血管塞栓術	19	14	13

スタッフ紹介



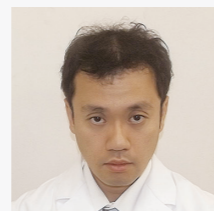
副院長 兼
消化器内科部長
あらい まさひろ
新井 正弘
消化器病

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本肝臓学会肝臓専門医



消化器内科
副部長
たなべ としろう
田辺 利朗
消化器病

日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本がん治療認定医機構認定医



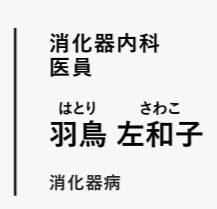
消化器内科
医長
かわばた としひろ
川端 利博
消化器病

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会総合内科専門医
日本肝臓学会肝臓専門医
日本がん治療認定医機構認定医



消化器内科
医長
かとう りゅうすけ
加藤 隆介
消化器病

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会総合内科専門医



消化器内科
医員
はとり さわこ
羽鳥 左和子
消化器病

循環器内科

命に関わる循環器疾患に対して
ハイレベルな専門治療を行います。

病診連携を重視、普段は原則かかりつけ医に、入院必要時には速やかに紹介していただく形式。高度な集中治療や救急医療に特化。症状のない心不全・治療抵抗性高血圧・慢性腎臓病などの教育入院を含め対応します。

主な対象疾患

- 冠動脈疾患 急性心筋梗塞・不安定狭心症・冠攣縮性狭心症など
- 心不全 急性心不全・虚血性心不全・心筋症・心筋炎・心臓弁膜症など
- 不整脈 心室細動・心室頻脈・心房細動・房室ブロック・洞不全症候群など
- 肺血管・末梢血管 肺高血圧・閉塞性動脈硬化症・足壊疽・腎動脈狭窄症など

診療科の特徴

● 急性期診療に特化

まず一番に、地域の皆様が急に生命の危機に陥った重大な時にこそ、我々がお役に立ちたいと考えています。約70年の当院の歴史の中で、新病院が完成した平成11年以降は、地域最大の循環器病の救急救命センターの役目を果たして参りました。これからもその役目をしっかりと果たすべく、より一層のスタッフや設備の充実を行って、最高の医療が提供できるように努力していく所存です。ただ、どうしても我々の医療資源にも限りがあります。そのため、地域の病院や院などの医療機関と密に連携して、通院治療は地域の医療機関で、当センターでは主として入院治療を受け持つといった共同診療を提案しています。今後当院での外来診療部門は段階的に縮小していく予定ですので、当センター通院中の患者さんにおかれましても、病状が安定された方につきましては、かかりつけ医として近隣の医療機関で通院医療を受けて頂く事のご協力をお願いいたします。尚、かかりつけ医からのご連絡があれば、何時でも当院での医療を受けて頂く事を可能とします。

● 個別指導による包括的再発予防

我々は予防医学も重要視しています。心臓病の治療は多くの場合、過食や運動不足といった生活習慣の改善が必要です。当センターでは急性心筋梗塞で入院された方の生活習慣改善のために、循環器科医師・かかりつけ医・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカーらが合同カンファレンスを行い、それぞれの専門の立場から十分議論した上で個別に指導を行います。



● 循環器疾患への専門性の高い治療

当センターでは従来の標準的な薬物治療に加え、下記の専門的で高度とされる医療を行います。

1. 心筋梗塞・狭心症といった冠動脈疾患に対する心臓カテーテル治療
2. 足壊疽を含めた閉塞性動脈硬化症・腎動脈狭窄症・肺動脈狭窄症に対するカテーテル治療
3. 不整脈疾患に対するカテーテル治療及びペースメーカー治療
4. 心不全に対する非薬物治療

もちろん、心臓バイパス・大動脈疾患や心臓弁膜症等の外科的手術、さらに再生医療や心臓移植を必要とする病態であれば、当センターでの医療だけでは完結しませんので、大学病院等のより高度な医療機関とも連携を図って、最善の治療法が円滑に実施できる様に努めています。

● 後遺症のない社会復帰を目指す救命救急

来院時または院外での心肺停止症例に対しては、従来から当センターでは体外循環冷却装置を用いた確実な脳低体温療法を実施する事により、後遺症なく社会復帰された症例を多数経験しています。

スタッフ紹介



循環器内科部長
とみやす けんいちろう
富安 貴一郎
心不全
カテーテル治療



循環器内科医長
やまなか りょうえつ
山中 亮悦
循環器領域一般



循環器内科医員
すずき ようすけ
鈴木 陽介
循環器領域一般

腎臓内科

慢性腎臓病は国民病です！

腎臓病は、軽微な症状で始まり、知らないあいだに進行し、気が付けば透析を受けざるを得ない状態になっていることがよくあります。腎臓病は、膠原病・リウマチ疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームなどによく合併し、増加傾向にあります。さらに慢性に進行する慢性腎臓病（CKD：chronic kidney disease）は心血管疾患（脳卒中や心筋梗塞など）を合併する頻度が高いことが知られています。

主な対象疾患

● 検尿異常（蛋白尿や血尿など）

腎臓病を発症している重要なサインの一つに、検尿異常（蛋白尿や血尿など）があります。検尿異常を指摘されましたら、放置せず、当科を受診してください。検尿異常の鑑別診断を行い、必要に応じて積極的に腎生検を実施して確定診断、適切な治療を行っていきます。

● 腎機能低下

急激に腎機能が低下したのか（急性腎不全）、あるいは徐々に腎機能が低下したのか（慢性腎不全）を鑑別、その原因の精査を行い、適切な治療を行います。慢性腎不全の場合、その進行の抑制をめざして教育入院を行います。

● 透析合併症治療

様々な透析合併症に対し治療にあたります。バスキュラーアクセストラブルに対しては、超音波ガイド下シャント PTA やアクセス再建術、修復術を積極的に行っています。また腹膜透析カテーテル合併症に対しても出口部変更術、再建術など治療に当たります。

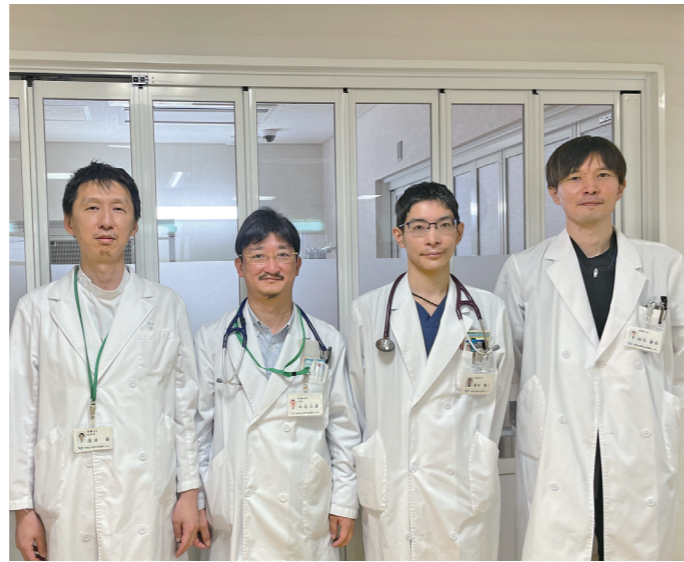
診療科の特徴

● 腎臓病の早期診断・治療

当院腎臓内科では、軽度の検尿異常や腎機能障害に対し積極的に腎生検を行い、早期に腎臓病的確な診断をして治療を開始し、腎臓病の進行抑制・寛解導入を目指しております。

● 慢性腎臓病の検査教育入院

保存期の慢性腎不全の患者さんを対象に「慢性腎臓病検査教育入院」を行い、管理栄養士、薬剤師、検査技師、および看護師と共にチーム医療として慢性腎臓病およびその合併症の進行を阻止すべく腎臓病診療にあたらせていただいております。



● ネフローゼ症候群

原因（一次性腎炎や二次性腎炎など）の鑑別診断、腎生検などで確定診断を行い、適切な治療を選択・実施します。当科では副腎皮質ステロイドホルモンによる治療に加え、免疫抑制薬、さらには LDL- アフェレーシスなどの特殊治療など色々な選択肢の中から最良の治療を選択します。

● 腎代替療法

慢性腎不全に対する保存的治療の限界と判断された場合は、すみやかに腎代替療法への移行を考慮します。具体的には血液透析、腹膜透析、腎移植を選択していただきます（当院では腎移植を行うことができませんので、希望される方がおられれば、他施設へ紹介致します）。

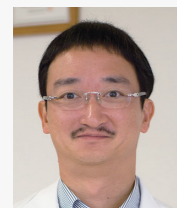
● 電解質異常

ナトリウム、カルシウムなどの電解質異常は早期の鑑別診断と治療が必要となります。特に、カルシウム異常は背景に何らかの疾患が存在することが多く、高カルシウム血症の場合は緊急の治療が必要です。

● 腎代替療法の選択・導入

末期腎不全に陥った場合は、腎代替療法の選択・導入（腹膜透析・血液透析）とその後の管理を行います。当科では、血液透析を選択された場合は内シャント造設術や動脈表在化術などバスキュラーアクセスの作成を、腹膜透析を選択された場合は腹膜透析カテーテルの腹腔内留置術を行っております。また腎センターでは月から土まで 25 ベッドで血液透析を行っており、地域の基幹病院として、さらには高次機能をもつ総合医療センターとして各科の医師と連携して種々の血液浄化治療も行っております。

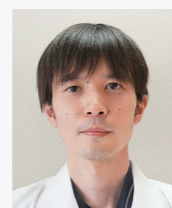
スタッフ紹介



腎センター長 兼
腎臓内科部長
なかたに きみひこ
中谷 公彦
腎臓内科・腎不全
膠原病・リウマチ



腎臓内科
副部長
あさい おさむ
浅井 修
腎臓内科・腎不全



腎臓内科
医員
たなか ひさや
田中 寿弥
腎臓内科・腎不全

（非常勤）

さわい しんじ
澤井 慎二
腎臓内科・腎不全

糖尿病・代謝内科

元気に楽しくすごす（健康寿命を延ばす）ために、日々の生活習慣を見直そう。

血糖値は勿論、糖尿病合併症（心臓、腎臓、脳血管、眼、がん等）の予防や早期治療に対応するため、当院の各部門と連携し、患者さんが日々健康に暮らすことを目標に患者さん一人一人にあう治療を提供できるよう努力しています。

主な対象疾患

● 2型糖尿病

糖尿病の方の 90%以上を占め様々な要因があります。そのため、ライフスタイルや原因にあった治療を提供するようにしています。

● 妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠

妊娠中に血糖値が高くなった方、もともと糖尿病のある方にも当院では対応しております。

● 1型糖尿病

当院では非常に多くの患者さんがおられます。高血糖緊急症の管理や、よりよい血糖コントロールを目指すためにインスリンポンプ導入等も行っています。

● 甲状腺機能異常症（バセドウ病や橋本病等）

若い女性が発症する方が多い病気です。最近では認知機能低下につながることもいわれ高齢の方は一度検査を。

診療科の特徴

当科は、血糖値のみをコントロールするのではなく、糖尿病を生活習慣病の一つとして治療することを目標としています。そのため、まず患者さんの生活習慣をお聞きしそれにあった食事指導や運動指導を行います。加えて糖尿病以外の生活習慣病や心臓や腎疾患の家族歴をお持ちの方には、心疾患や腎症、網膜症等も適宜評価し早期治療を行い、皆様に笑顔で暮らしていけるよう心掛けています。

診療実績

● 外来患者さん

糖尿病患者さん約 1500 人、内分泌疾患約 150 人（一部重複）

● 入院加療

糖尿病教育入院：約 40-50 人 / 年（併診除く）

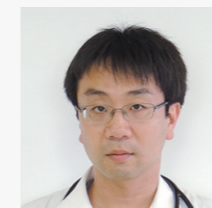
重症低血糖入院：約 5-10 人 / 年

糖尿病性ケトアシドーシスおよび高血糖高浸透圧状態：約 20 人 / 年

血糖併診察管理：年間 300 人程度

内分泌疾患治療・精査入院：20-30 人 / 年

スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科
部長
つづみ たけし
堤 丈士
糖尿病・循環器・心血管治療
内科全般・内分泌

日本糖尿病学会専門医・研修指導医
日本循環器学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医・認定医
日本内科学会総合内科専門医・認定医
日本禁煙学会禁煙サポーター
京都府立医科大学臨床准教授

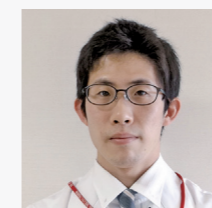


糖尿病・代謝内科
副部長
かどの まゆこ
門野 真由子
糖尿病・内分泌・内科全般

日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内分泌学会専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医・認定医
京都府立医科大学臨床准教授



糖尿病・代謝内科
医員
いいお たくや
飯尾 卓哉
糖尿病・内分泌



糖尿病・代謝内科
医員
こま じゅんぺい
小間 淳平
糖尿病・内分泌

（非常勤）

せきおか りさ
関岡 理沙
糖尿病・内分泌

リウマチ科

京都南部のリウマチ・膠原病疾患の中核病院として地域に密着した診療を行います。

専門科を持つ病院が限られているリウマチ・膠原病疾患を専門医が各科、大学病院などとの連携を図りながら専門的な医療を行います。

主な対象疾患

- 関節リウマチ
- 悪性関節リウマチ
- リウマチ性多発筋痛症
- 全身性エリテマトーデス
- シェーグレン症候群
- 全身性強皮症
- 皮膚筋炎・多発性筋炎
- 免疫介在性壊死性ミオパチー
- 混合性結合組織病
- 成人発症スティル病
- ベーチェット病
- 血管炎（ANCA 関連血管炎、大動脈炎症候群、巨細胞性動脈炎など）のリウマチ性疾患
- 膠原病
- 自己免疫疾患

診療科の特徴

リウマチ・膠原病分野は希少疾患や難病指定を受けている疾患も多数あり、専門施設が少なく通院先に困っておられる患者さんが多く、また生物学的製剤、JAK 阻害剤、免疫抑制剤など様々な治療の選択肢が増えている分野です。当院では京都南部の中核病院としてリウマチ学会認定専門医による専門的かつ地域に密着した医療を目指しています。



関節エコー検査



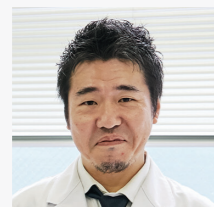
点滴の生物学的製剤投与を受けていただく外来化学療法室です

診療実績

令和3年度 リウマチ性疾患 約 450 名、膠原病疾患 約 120 名。

令和4年度 リウマチ性疾患 約 500 名、膠原病疾患 約 150 名。

スタッフ紹介



リウマチ科部長

むらかみ けん
村上 憲

膠原病・リウマチ

日本リウマチ学会リウマチ専門医



リウマチ科医員

さとう あきえ
佐藤 晃枝

膠原病・リウマチ

呼吸器内科

各診療ガイドラインに則した最新の呼吸器診療を心がけています。

地域医療の充実を目指して。

主な対象疾患

- 気管支喘息
- 咳喘息
- 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- 睡眠時無呼吸症候群
- 気管支拡張症
- アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
- 過敏性肺臓炎
- 間質性肺炎
- 原発性肺癌
- 呼吸器感染症

診療科の特徴

気管支喘息や COPD の患者さんの吸入治療を中心に、睡眠時無呼吸症候群の CPAP (持続的気道陽圧) 治療や特発性肺線維症の薬物治療など一般呼吸器診療を実施しております。最近では肺非結核性抗酸菌などの慢性気道感染症の方が増加しており、治療を担当しております。気管支鏡検査による診断も実施しております。

診療実績

週 2 回 (水・木) 午前外来

非常勤医師による外来診療のみの対応となります。
専門的な治療、入院が必要な患者さんは他院をご紹介させていただくことがありますので、ご了承下さい。

スタッフ紹介

(非常勤)

やまだ ただあき
山田 忠明

呼吸器診療全般

(非常勤)

ひらい そういち
平井 聡一

呼吸器診療全般

総合内科

内科疾患全般を幅広く診療しております。

総合内科

お困りのことがあればご相談ください。

主な対象疾患

●一般内科疾患

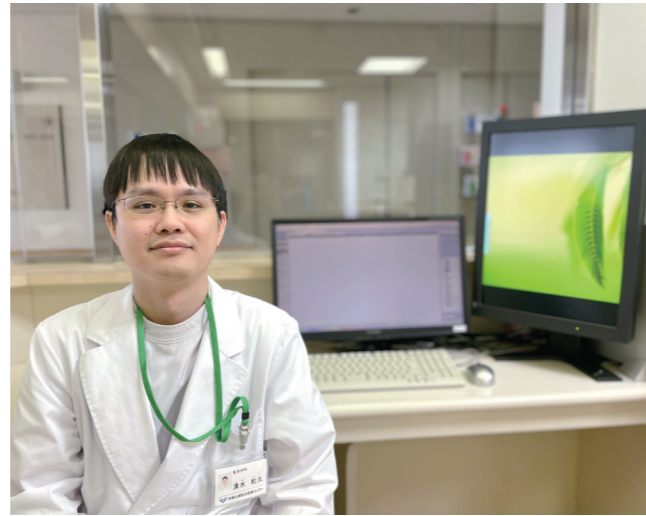
肺炎、尿路感染症、胃腸炎、蜂窩織炎などを診断し治療を行います。

●不明熱

通常の検査では原因のはっきりしない発熱患者さんを診察します。

●高齢者

誤嚥性肺炎などの疾患に加えて、脱水症・食欲不振・せん妄など頻繁にみられる症状に対応し、治療にあたります。



診療科の特徴

総合内科は臓器にとらわれず全般的な診断・治療をおこないます。内科疾患全般が含まれますが、特に以下のようなときにご相談いただければ幸いです。

- ・病態が複雑で、診断に困る場合の鑑別診断
- ・発熱などの急性疾患の初期対応
- ・高齢で入退院を繰り返しており、体力が落ちて自宅での療養が困難となり退院調整を必要とする場合

診断・治療にあたっては各専門診療科とも連携し、またより高度な医療が必要であると判断した場合は高次病院への紹介を行います。病気だけでなく、人を診る医療を心がけていきますので、よろしくお願いいたします。

スタッフ紹介



内科医員

しみず わく
清水 和久

日本内科学会内科専門医

小児科

小児科医は『こどもの総合医』です。何でもご相談ください。

小児科

京都府南部の中核病院小児科として、近隣機関と連携し、赤ちゃんから思春期への成長発達を見守る拠り所を目指します。

主な対象疾患

- 感染症 呼吸器・消化管感染症、尿路感染症、中枢神経感染症など
- 神経・発達 てんかんなどの発作性疾患、頭痛、先天異常、発達遅滞、重症心身障害など
- 血液・免疫 貧血、血小板減少症、免疫不全、リウマチ性疾患、膠原病、炎症性腸疾患など
- アレルギー 食物アレルギー、気管支喘息など
- 循環器 先天性心疾患、川崎病、不整脈など
- 腎臓 ネフローゼ、慢性腎炎、尿路感染症、腎尿路奇形
- 新生児 早産児(在胎34週・1500g以上)、新生児呼吸障害、黄疸など
- 内分泌・代謝 低身長、思春期早発症、先天代謝異常症、糖尿病、肥満など
- 心身症 起立性調節障害、過敏性腸症候群、頭痛など



診療科の特徴

●外来診療

午前の一般外来では、十分な感染対策のもと、発熱・咳嗽・下痢嘔吐、などを主訴とする急性感染症の診療にあたるほか、種々の慢性疾患に対しての初期診療も行います。木津川市在住の方については、乳児個別健診(月・金)を当院で受けて頂くことも可能です。

午後の専門外来(予約制)では、アレルギー(月・火・隔週木)/腎(火)/循環器(火)/神経・発達(木)/内分泌・代謝(金・隔週木)、の幅広い領域をカバーしています。また、基礎疾患を有する小児に対する専門的予防接種(月・水)、公認心理師と連携した心身症の診察・カウンセリング(月午後)も行っています。今後、子育て支援や発達障害診療についても市町村と連携し積極的に関与してゆく予定です。

●救急診療

日曜祝日(終日)および木曜(夜間)は、山城南医療圏の輪番担当として小児科医が救急対応しています。その他の平日夜間についても、近隣診療所からの入院を要するお子さんの紹介があれば受け入れています。

●入院診療

外来・救急・紹介患者さん、また、院内出生のうち早産の赤ちゃんを含め、年間入院件数は500件程です。遠方の専門医療機関で治療されたお子さんの回復期の転院先としても対応しています。また、食物アレルギー負荷試験や成長ホルモン分泌刺激負荷試験、鎮静剤使用下でのMRI撮像、等、検査目的の短期・日帰り入院も行っています。

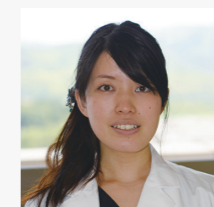
スタッフ紹介



小児科主任部長

ないとう たけし
内藤 岳史

小児科全般
神経・発達



小児科医長

まさき あやか
正木 綾香

小児科全般
腎疾患・予防接種

(非常勤)
すぎもと さとる
杉本 哲
小児内分泌・代謝

(非常勤)
もりもと ひでちか
森元 英周
小児内分泌・代謝

(非常勤)
にしたのぞみ
西田 望
小児内分泌・代謝

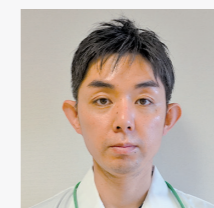
(非常勤)
おおや さとる
大矢 暁
腎疾患



小児科医長

ちはら たかよ
千原 貴世

小児科全般
アレルギー・発達障害



小児科医長

もりした ゆうま
森下 祐馬

小児科全般
小児循環器



小児科医員

たうら よしひろ
田浦 喜裕

小児科全般

泌尿器科

京都南部地域で頼られる泌尿器科を目指して
日夜励んでおります。

泌尿器科

大学病院と連携し、最新、最適な医療を提供します。

主な対象疾患

- 癌 腎臓・膀胱・前立腺・精巣
- 尿路結石 腎臓・尿管・膀胱
- 炎症性疾患・前立腺肥大症・過活動膀胱 排尿障害など

診療科の特徴

当院の泌尿器科は主に泌尿器外科を行い、内科的腎疾患や透析に関しては腎臓内科が担当しています。

扱う臓器は、腎・尿管・膀胱・尿道といった尿路臓器、精巣・前立腺などの男性性器、副腎などの内分泌臓器があり、疾患としては、癌・結石・炎症疾患などがあげられます。現在、日本泌尿器科学会教育基幹施設に認定されており、専門医の育成も行っています。

また、治療は本邦や欧米の泌尿器科学会のガイドラインに則り、最新かつ標準治療を提案するようにしています。京都府立医科大学泌尿器科とも密に連絡を取り、多くの泌尿器科医の意見を取り入れながら治療方針を決定しています。

癌に関しては開腹手術による腎摘除術、膀胱全摘除術、前立腺全摘除術はもとより、低侵襲治療として膀胱癌に対する内視鏡手術や抗がん剤治療、動注化学療法、さらに腎癌や腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術、分子標的治療、抗がん剤治療も行っています。また最近の治療のトレンドでもあるロボット支援手術や癌の局所療法も、希望される場合は京都府立医科大学と連携を取り、治療を行えるよう斡旋しています。前立腺癌に対する内分泌療法や抗癌剤治療も行っています。

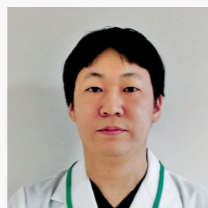
結石に対しての治療は体外衝撃波結石破碎術だけでなく、経尿道的尿路結石摘除術(TUL, f-TUL)も行っています。さらに前立腺肥大症や排尿機能障害に対しての内服治療や内視鏡治療のように、低侵襲治療も患者さんと相談しながら積極的に行っています。



スタッフ紹介



泌尿器科部長
まつばら ひろき
松原 弘樹
日本泌尿器科学会専門医
日本泌尿器科学会指導医
がん治療認定医
泌尿器腹腔鏡技術認定医



泌尿器科医員
むらした じゅんき
村下 純輝
日本泌尿器科学会専門医

脳神経内科

地域の脳神経疾患の問題に全力で対応します。

脳神経内科

主な対象疾患

- 脳梗塞
脳卒中といわれる一群の疾患で、手足の麻痺や呂律が回らないといった症状が突然出現します。可能な限り速やかに受診されることをお勧めします。脳梗塞の一部では、条件が整えば血栓溶解療法が行えることがあります。また、早期に治療およびリハビリテーションを開始することにより、後遺障害の軽減が期待できます。
- てんかん
突然意識を失う、手足に痙攣が生じるなどの症状が繰り返し起こる疾患です。適切な治療を受けることで再発を予防できます。
- パーキンソン病
動作が遅くなる、手足が震えるなどの症状が徐々に悪化する脳の疾患です。
- 認知症
脳の機能低下により記憶力をはじめとした高次脳機能が低下し、社会生活や日常生活が不自由になる疾患です。アルツハイマー型認知症、血管性認知症などがあります。
- 頭痛
片頭痛、群発頭痛、緊張型頭痛、薬物乱用頭痛などがあり、診断を的確に行うことにより、有効な治療が行えます。

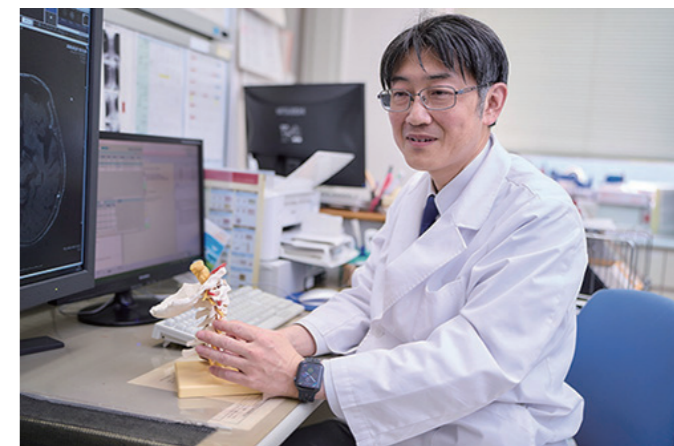
診療科の特徴

脳神経内科は、脳・脊髄などの中枢神経系、末梢神経系、筋肉に関連する幅広い疾患を扱います。パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの難病だけでなく、頭痛・しびれ・めまいなどの日常的にみられる疾患にも対応しています。超高齢社会に入り、急性疾患では脳梗塞、慢性疾患では認知症が増加し、脳神経内科の需要がますます高まっています。

疾患の特性と原因を特定するために、脳神経内科は、問診と診察を重要視し、一人一人の診察に十分な時間をいただいています。

● 静注血栓溶解(rt-PA)療法

発症間もない超急性期脳梗塞に対して、詰まった血栓を溶解して脳動脈を再開させる点滴治療です。当院は一次脳卒中センターに施設認定され、救急搬送された脳梗塞症例に対して血栓溶解療法を含む速やかな治療体制を構築しています。



スタッフ紹介



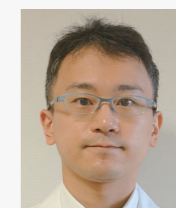
院長
いわもと かずひで
岩本 一秀
神経疾患全般
認知症

日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定医/総合内科専門医
日本脳卒中学会脳卒中専門医
日本臨床神経生理学会指定認定医
日本医師会産業医



脳神経内科
部長
おおしま よういち
大島 洋一
神経疾患全般
認知症

日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定医/総合内科専門医
日本脳卒中学会脳卒中専門医
日本認知症学会認定専門医・指導医



脳神経内科
医員
うえだ てつひろ
上田 哲大
神経疾患全般

日本神経学会神経内科専門医
日本内科学会認定医



脳神経内科
医員
よしだ まいか
吉田 舞花
神経疾患全般

(非常勤)
こいずみひでたか
小泉 英貴
神経疾患全般

(非常勤)
つじ ゆきこ
辻 有希子
神経疾患全般

呼吸器外科

肺癌、転移性肺腫瘍、気胸などの呼吸器領域の外科治療を行っています。的確な術前診断を行い、低侵襲で安全かつ確実な手術を行います。

呼吸器外科

不安なこと、聞きたいことがありましたら、納得いくまで説明いたします。

主な対象疾患

- **肺癌** 肺癌の手術治療、手術後の補助化学療法
- **気胸** 自然気胸に対する手術治療
- **縦郭腫瘍** 胸腺腫、胸腺癌、神経鞘腫、奇形腫などの手術治療
- **転移性肺腫瘍** 大腸癌・直腸癌、腎癌などの肺転移に対する手術治療



診療科の特徴

当院での呼吸器外科手術の特徴は、微小な肺腫瘍に対する術前マーキングを併用した胸腔鏡手術です。近年、胸部 CT の普及により、胸部レントゲンでは指摘できないような小さな影が見つかるようになりました。小さい陰影は、従来の検査法（気管支鏡、針生検など）では確定診断を得られないことが多いです。しかしながら、悪性を疑う陰影を経過観察し、大きくなってから手術していたのでは、小さく見つかったメリットがありません。小さく見つけて小さく手術することで、早期に肺癌を治療できると考えています。

手術前に CT で確認しながら、細い針を刺して目的の陰影の近くまで進めます。微量の造影剤を注入してマーキングとします。手術中に、レントゲンを利用してマーキングを確認し、微小腫瘍を含むようにして切除します。肺癌・転移性肺腫瘍・気胸などの呼吸器外科の手術は、ほぼ全症例で内視鏡手術を行っています。2cm 程度の小さな傷を2カ所、わきの下に4~8cm 程度の傷を1カ所の合計3カ所の傷で手術を行っています。

気胸の手術では、さらに低侵襲な1カ所の創で行う手術をはじめめています。手術後の痛みはさらに軽減しています。



スタッフ紹介



呼吸器外科部長

いとう かずひろ
伊藤 和弘

日本呼吸器外科学会専門医

(非常勤)
にしむら ともき
西村 友樹

消化器外科

消化器癌に対する外科治療を中心としたトータルケア。

消化器外科

私たちは、地域において、消化器癌をはじめとする様々な消化器疾患に対する外科治療を支えます。

主な対象疾患

- **消化器癌** 胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌・胆道癌など
- **良性疾患** 胆石症・鼠径ヘルニアなど
- **急性疾患** 急性腹症(急性虫垂炎・腸閉塞・急性胆嚢炎など)

診療科の特徴

当院は地域がん診療病院としての役割を担い、消化器癌に対して消化器内科、放射線科と連携し、的確な診断、そして適切かつ標準的な外科治療を提供しています。また地域の癌治療を支えるために、糖尿病や心臓病など様々な病気を伴ったがん患者さんも癌治療ができるように各診療科とも連携し、トータルケアを提供しております。

外科治療は、丁寧で精度の高い腹腔鏡下手術を提供し、その技術を生かし、より良い治療ができるように研鑽に努めています。

私たちは、緩和ケアにも精通し、多くにメディカルスタッフとともにチームを作りあげ、切れ目のないトータルケアを心掛けております。

診療実績

治療項目	手術数				
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
胃	16(11)	16(13)	15(12)	19(12)	15(7)
結腸・直腸	51(42)	51(49)	42(35)	60(56)	51(45)
肝	4	4	1	2	9(2)
膵	4	4	1	2	7
胆石	35(35)	45(39)	35(34)	39(38)	54(52)
ヘルニア	79(48)	77(53)	85(54)	63(45)	112(87)
虫垂炎	23(23)	23(22)	19(18)	22(22)	35(35)
消外全麻	272	278	255	249	328
乳腺	62	51	63	51	48
小児外科	50	41	35	37	64
全体	362	352	356	339	457
臨時	84	53	67	59	82

()…腹腔鏡下手術数

スタッフ紹介

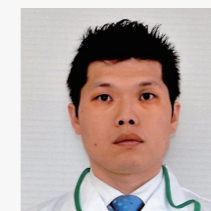


副院長

やまくち あきひろ
山口 明浩

消化器外科

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本緩和医療学会認定医
日本救急医学会専門医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
日本肝胆膵外科学会評議員



消化器外科
副部長

かしもと きんご
柏本 錦吾

外科

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医



消化器外科
医長

はらだ きょういち
原田 恭一

消化器外科

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

乳腺外科

確かな診断・適切な治療を目指しています。

心地よく受診していただけるよう、「明るい診察室」を心がけております。

主な対象疾患

- 乳腺疾患** 乳癌、その他の乳腺疾患

診療科の特徴

- 乳腺の診療では、日本乳癌学会の標準治療ガイドライン(科学的根拠に基づいた現時点での最善の治療)の実践を目指します。
- 現在、完全予約診療となっております。
- 女性医師・女性技師による診療を選択していただけます。

診療実績

治療項目	令和3年度	令和4年度
乳がん手術	46	45
良性腫瘍手術	8	5
その他手術	4	1

スタッフ紹介



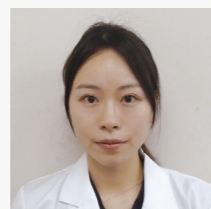
乳腺外科部長

まつだ たかゆき
松田 高幸

乳腺外科

日本乳癌学会認定医・専門医
日本外科学会専門医
日本麻酔科学会認定医
日本医師会認定産業医
近畿外科学会評議員
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

検診マンモグラフィ読影認定医(A評価)
乳がん検診超音波実施・判定医
JOHBOCセミナー修了
リンパ浮腫研修修了
同志社大学生命医科学部嘱託講師
京都府立医科大学臨床教授



乳腺外科医員

にしむら まりあ
西村 真里愛

乳腺外科

(非常勤)
まつい ともや
松井 智也

小児外科

地域に密着した小児外科医療の提供を目指しています。親御さんに寄り添って、お子さんの治療を行います。

お子さんの便秘について気軽にご相談ください。

主な対象疾患

- 正中頸嚢胞**
- 腸重積**
- 鼠径ヘルニア**
- 移動性精巣**
- 外傷**
- 漏斗胸**
- Meckel 憩室**
- 陰嚢水腫**
- 包茎**
- 虫垂炎**
- 臍ヘルニア**
- 停留精巣**
- 便秘症**

診療科の特徴

0~15歳までのお子さんの手術が必要な病気の治療を行う診療科です。小児科・外科・産婦人科・泌尿器科の医師と連携して治療を行います。小児外科特有の疾患や重症心身症の患者さんに関しては小児期以降でも治療・管理を行います。稀な疾患や高度な検査や治療を要する場合、京都府立医科大学小児外科学教室と連携して対応致します。

- 腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC法)、整容面(見た目)にこだわった手術、小児慢性便秘に対する排便管理を得意としています。**

診療実績

治療項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総手術	40	34	39	67
鼠径ヘルニア関連手術	14	13	14	29
臍ヘルニア	2	4	0	9
精巣固定術	11	8	12	15

スタッフ紹介



小児外科医長

ふくなが けんじ
福永 健治

直腸肛門奇形・排便管理

日本外科学会専門医
日本小児外科学会専門医
日本DMAT隊員

整形外科

整形外科として広く認められる標準的な治療を心がけています。手術療法および保存療法について患者さんの意志を尊重し決定します。

若年者から高齢者まで幅広い整形外科疾患に対応します。手術に関しては、専門分野にしている脊椎脊髄外科疾患をはじめ、手術の低侵襲化に取り組んでおり、入院期間の短縮・早期社会復帰を目指しています。

主な対象疾患

- **骨折** 骨折の部位や転位の程度によって治療法を選択します。
- **頸椎性脊髄症** 加齢による頸椎の変性や変形によって脊柱管が狭くなることで脊髄が圧迫を受けます。しびれなどの知覚障害や、字が書きにくい、箸が持てない、歩きづらなどの運動障害を生じます。
- **腰部脊柱管狭窄症** 下肢の痛みによる歩行障害、場合によっては残尿・尿漏れなどの排尿障害を生じることがあります。
- **変形性膝関節症** 関節軟骨の変性によって歩行時の関節痛を生じます。
- **骨粗鬆症** 骨密度の低下によって脊椎圧迫骨折を生じ、寝たきりになる場合があります。
- **肩関節周囲炎** 肩関節の痛みと可動域制限を認めます。

診療科の特徴

整形外科では骨、関節、筋肉、神経など運動器と呼ばれる臓器を対象としています。具体的には、四肢や脊椎外傷、慢性的な痛みや変形、運動機能障害などを診療しています。手術は、高齢者の大腿骨骨折や交通・労災事故による四肢骨折に対する骨接合術、脊椎手術、人工関節手術を行っています。術後はスムーズにリハビリテーションを開始できるように、術前よりリハビリ療法士が介入します。カンファレンスを通して医療スタッフと問題点を共有し、チームとして機能障害の改善を目標に努力しています。

- 腰部脊柱管狭窄症に対して顕微鏡視下で行う低侵襲除圧術（筋肉温存型腰椎椎弓間除圧術）
- 脊椎固定術時に正確にスクリュー挿入を行うための脊椎ナビゲーション手術
- 脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術(BKP)
- 神経に直接侵襲を加えず脊椎の変形矯正を行う側方進入腰椎固定術(OLIF)



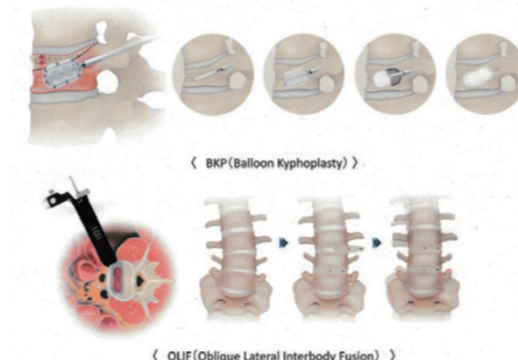
顕微鏡下手術



脊椎ナビゲーションシステム

診療実績(常勤2人体制以降)

治療項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総件数	294	337	304	269	336
骨折	144	166	146	141	157
脊椎	54	60	66	62	85
人工関節	17	16	8	12	12
その他	79	95	84	54	82



スタッフ紹介

整形外科部長
さわだ こうへい
澤田 恒平
整形外科一般
関節外科

日本整形外科学会専門医
日本リハビリテーション学会臨床認定医
医学博士

整形外科副部長
みずの けんたろう
水野 健太郎
整形外科一般
脊椎脊髄疾患

日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医・専門医
医学博士

整形外科医員
いらい ひろゆき
岩井 宏之
整形外科一般
脊椎脊髄疾患

日本整形外科学会専門医

(非常勤)
やまさき たかひと
山崎 隆仁

(非常勤)
こばやし ゆみこ
小林 裕美子

脳神経外科

「的確な治療を迅速に」をモットーに診療を行っています。

京都府立医科大学附属病院 脳神経外科教室ならびに当院 脳神経内科との連携を行い、当医療圏唯一の脳神経外科として、質の高い医療を提供することを目指しています。

主な対象疾患

- **脳腫瘍** 神経膠腫、髄膜腫、聴神経鞘腫、悪性リンパ腫など
- **脳血管障害** くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞、頸動脈狭窄症など
- **頭部外傷** 硬膜外血腫、硬膜下血腫、脳挫傷、頭蓋骨骨折など
- **機能的疾患** 正常圧水頭症、三叉神経痛、顔面けいれんなど
- **感染症** 脳膿瘍、硬膜下膿瘍など
- **脊椎脊髄疾患** 脳卒中後や脊髄損傷後の痙縮(※)など

診療科の特徴

外科的治療や血管内治療が必要となる脳卒中等の緊急疾患にも対応しております。

治療については患者さん・ご家族へ、十分に説明及び相談をさせていただいた上で方針を決定しています。

膠芽腫への交流電場腫瘍治療(オプチュン®)など新しい治療も積極的に取り入れております。

●日本脳神経外科学会データベース研究事業(JND)への参加について

当院は、「日本脳神経外科学会データベース研究事業(Japan Neurosurgical Database: JND)」に協力しています。2018(平成30)年1月から当科に入院された患者さんの臨床データを解析させて頂き、脳神経外科医療の質の評価に役立てることを目的としています。

解析のため提供するデータは、提供前に個人を特定できない形に加工した上で提供しますので、患者さん個人のプライバシーは完全に保護されます。

上記 JND に御自身のデータが使用されることを希望されない方は、総合受付にその旨をお申し出くださいようお願い致します。

その他、JNDについての資料の閲覧を希望される方は、日本脳神経外科学会ホームページ(<https://jns-official.jp>)をご参照ください。

※バクロフェン髄注療法(ITB療法)

脳・脊髄疾患による影響は、急性期(病期が起きた直後)からある直接的な症状のみに留まりません。

しばらくしてから痙縮(筋肉がかたい、動かしにくい、しびれる等)が続発すると、日常生活が著しく制限され、生活の質が著しく低下したり、介護する方への負担が増大したりします。

基本的には理学療法(リハビリ)や内服薬、ボトックス投与などが行われますが、それらの治療でもコントロールが不十分な場合があります。

ITB はそういった方に薬物の試験髄注を行い、良好な反応であった場合に行われる治療です。

腹部にコンピューターにてコントロールされたポンプを埋め込み、脊髄の周りに持続的に薬液を送り込む治療になります。

薬液は2-3か月に一度補充する必要があり、薬液による副作用が出ることもあります。また、コンピューターの電池が切れた場合(約5-7年といわれています)は、ポンプの入れ替えが必要になります。埋め込んだ器具などの不具合や感染がおきることもあり、手術後の定期通院が必要となります。

治療法の詳細や適応については、お気軽にご相談ください。

スタッフ紹介

脳神経外科副部長
ふじた ともあき
藤田 智昭
脳神経外科全般

日本脳神経外科学会専門医指導医
日本脳神経外傷学会認定指導医
日本脊髄外科学会指導医
日本脳卒中学会専門医指導医

(非常勤)
いわた よしひろ
岩本 芳浩
脳神経外科全般

医学博士
日本脳神経外科学会専門医指導医
日本脳卒中学会専門医指導医
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本救急医学会専門医

(非常勤)
まるやま だいすけ
丸山 大輔

(非常勤)
ごとう ゆうだい
後藤 雄大

麻酔科

救急から手術、集中治療といった急性期医療全般に携わっています。

麻酔科

常勤医、非常勤医、すべて専門医で対応しています。

主な対象疾患

●救急・外科手術・集中治療を必要とする疾患全般

診療科の特徴

救急では、迅速な診断、的確な初期治療を行います。
手術では、患者さんが受ける手術の影響を最小限にすべく、厳格な術前・術中管理を手術室スタッフとともにを行います。
集中治療では、侵襲的治療を安全に行います。
救急から手術、集中治療といった急性期医療が安全に行われるように医療の質の向上に日々努めています。

診療実績

令和4年度 麻酔科管理手術症例 927 例。



スタッフ紹介



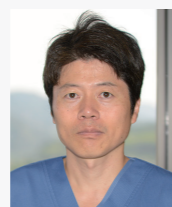
診療部長 兼
麻酔科部長
まつもと やすのり
松本 裕則

日本麻酔科学会指導医
日本専門医機構麻酔科専門医
日本ペインクリニック学会専門医
日本医療安全推進学会認定
医療安全高度専門家
日本医療安全学会認定
高度医療安全推進者
日本スポーツ協会認定スポーツドクター
インфекションコントロールドクター
京都府立医科大学臨床教授



救急部長 兼
麻酔科副部長
ひらやま たかひろ
平山 敬浩

日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医
日本離床学会認定指導医
ICLSディレクター
JTECインストラクター
JPTECインストラクター
ISLSインストラクター
インフェクションコントロールドクター



ICU副部長 兼
麻酔科副部長
すぎ たかし
杉 崇史

日本専門医機構麻酔科専門医
産業医



麻酔科医員
たかい あきこ
高井 明子

(非常勤)
しもさと ごうしゅん
下里 豪俊
日本麻酔科学会麻酔科専門医

放射線科

治療方針の決定に結びつく、質の高い画像診断を心がけています。

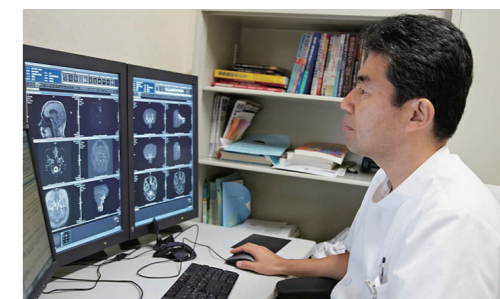
放射線科



最先端の画像診断装置を用いて、最高の画像を提供します。
からだに負担がかからない、優しい検査を心がけています。

診療科の特徴

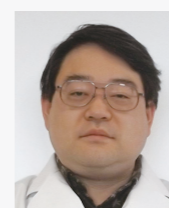
- 4名の常勤医(うち2名が専門医)による質の高い診断と治療を行っています。
- マルチスライスCTを用いて、3次元画像を作成することにより、精密な診断を行っています。心臓CTに関しては、全国的に見ても豊富な経験と症例数を有しています。
- 1.5テスラMRIは、全身の精密な検査が可能です。撮影時の機械音が静かで、快適に検査が受けられます。
- 地域の医療機関からの紹介で、CTやMRIなどの検査を行っています。
- IVRの分野では、他科に入院中の患者さんの癌に対する動注治療、CVポートの挿入、膿瘍ドレナージ、CTガイド下生検などを行っています。



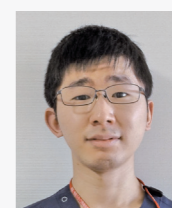
スタッフ紹介



副院長 兼
放射線科部長
いしはら きよし
石原 潔
画像診断



放射線科副部長
いとう たかあき
伊藤 誠明
IVR画像診断



放射線科医員
にしむら ともあき
西村 朋彰



放射線科医員
きよしげ なおき
清重 尚希

産婦人科

地域に密着した産婦人科として女性のQOL向上のために治療を行っています。

当院は京都府内で地域周産期センターに指定されており、総合病院の良さを生かして妊婦さんの安心、安全な分娩ができるよう努めています。思春期から更年期、老年期までの女性に対応し、薬物療法や手術療法などその方にとって最適な治療を選択していきます。



主な対象疾患

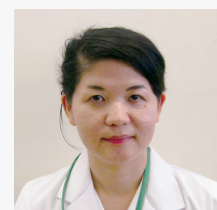
- **周産期** 正常妊娠・分娩、双胎、切迫流産や妊娠高血圧症などの合併症妊娠
- **腫瘍** 子宮筋腫などの良性腫瘍や悪性腫瘍の診断、薬物療法、手術
- **女性ヘルスケア** 月経異常、更年期障害、骨盤臓器脱(子宮脱)、不妊相談
- **その他** 子宮がん検診(二次検診)、HPVワクチン相談、性感染症

診療科の特徴

妊娠中から分娩、産後まで医師、助産師、看護師の共同管理により安全で安心感のある良質な医療の提供を心がけています。帝王切開術での分娩時にも小児科医、麻酔科医との連携を取りながら十分な管理体制を維持しています。婦人科疾患については薬物療法、手術療法などその方にとって最適な治療法を選択するように心がけています。手術に関しても内視鏡手術(腹腔鏡・子宮鏡)、開腹手術、膣式手術を検討し、より低侵襲な手術を行っています。また病気を未然に防ぎ、女性の健康増進を目指したいという思いから、婦人科がん検診も積極的に行い、思春期から更年期、老年期の女性のヘルスケアにも力を入れています。



スタッフ紹介

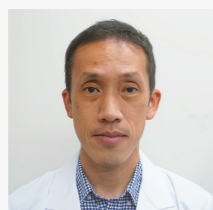


産婦人科部長

きたおか ゆい
北岡 由衣

周産期
女性ヘルスケア
内視鏡手術

日本産科婦人科学会専門医・指導医
日本女性医学会女性ヘルスケア専門医
母体保護法指定医師

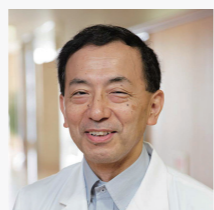


産婦人科副部長

きし ようへい
貴志 洋平

内視鏡手術
子宮内膜症
周産期

日本産科婦人科学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

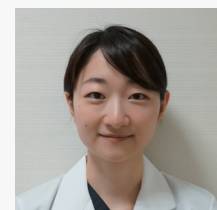


産婦人科医員

さわだ しげなり
澤田 重成

周産期
腫瘍全般
膣式手術

日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師



産婦人科医員

いわた あきか
岩田 秋香

産婦人科一般



産婦人科医員

やまうち さいこ
山内 彩子

産婦人科一般

眼科

眼科疾患を確実に診断し、安全に治療を行うことを目指しています。

白内障、緑内障、網膜疾患、眼瞼疾患などの眼科疾患について、診断治療を行っています。

主な対象疾患

- **眼瞼疾患** 神眼瞼下垂や内反症など
- **緑内障**
- **前眼部疾患** 結膜炎、角膜炎など
- **網膜疾患** 糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、黄斑変性など
- **白内障**
- **小児眼科疾患** 斜視、弱視など

一般眼科疾患の診断、治療を行っています。手術治療については白内障手術が最も多く、基本的に無縫合小切開手術を施行しています。また眼瞼手術なども行っており、網膜硝子体手術については、京都府立医科大学附属病院などの専門外来に紹介し、連携して治療を行っています。また抗VEGF抗体硝子体注射、トリアムシロンのテノン嚢下注射などの処置、レーザー治療なども行っています。

診療科の特徴

眼科では診断、治療を行うために、様々な精密機器を使用しています。検査機器としては、OCT(眼底三次元解析装置)、IOLマスター(光学的眼軸長測定装置)、超音波Aモード・Bモード測定装置、眼底カメラ、皮膚電極ERG、スペキュラーマイクロスコープ、角膜形状解析装置、オートレフラクトメーター、ノンコンタクトトノメーター、Hess複像検査、ハンフリー自動視野計、ゴールドマン視野計など。

治療機器としてはYAGレーザー装置(YAG/SLT)、レーザー光凝固装置、また手術に使用する機器として手術顕微鏡(Zeiss Lumera700)白内障手術機器(Alcon Centurion)イメージガイドシステム(Verion)を備えています。



スタッフ紹介



眼科部長

そのむら ゆきこ
藺村 有紀子

日本眼科学会眼科専門医

皮膚科

必要な検査を適切に行い、最適な治療を提案いたします。

皮膚科

子供から大人までのあらゆる皮膚疾患に対応し、皮膚症状だけでなく毛・爪・口唇・陰部など、身体の表面にあらわれる疾患の診察をしています。

主な対象疾患

●アレルギー・炎症性疾患

じんま疹、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎（かぶれ）、尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、薬疹など

●感染症

蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹（とびひ）などの細菌感染症・単純疱疹、帯状疱疹（ヘルペス）、水痘（みずぼうそう）、尋常性ゆうぜい（イボ）などのウイルス感染症・足爪白癬（みずむし）、カンジダ症などの真菌感染症など

●皮膚腫瘍

粉瘤、脂肪腫、脂漏性角化症、日光角化症、ボーエン病、基底細胞癌など

●皮膚潰瘍

熱傷、褥瘡など

●その他

尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、多汗症、陥入爪、円形脱毛症など

診療科の特徴

皮膚疾患に対して最善の治療を行うためには、早期に適切な診断をすることが重要であり、当院では様々な検査（詳細な問診、パッチテスト、プリックテスト（※）、血液検査、ダーモスコピー（※）、皮膚生検、画像検査〈超音波検査、CT、MRI〉など）を行います。診断がついても治療方法は一つとは限りませんので、できるだけ患者さんの希望に添った治療を行うことを心掛けていきます。

尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹などに対して生物学的製剤を使用して治療を行っています（生物学的製剤使用承認施設）。

皮膚腫瘍に対して、診断（皮膚生検、ダーモスコピー（※）、画像検査など）および治療を行っています。

定期手術は水曜日に手術室で行っています（予約制）。外来患者さんの小手術（粉瘤、脂漏性角化症、陥入爪など）は別の曜日に外来処置室で行うこともあります。

※プリックテスト

アレルゲンエキスを皮膚に一滴たらし、検査用の針を皮膚の表面に押し当てて、15分後の反応でアレルギー陽性を判断する検査です。

※ダーモスコピー

ダーモスコピーというライトがついた拡大鏡を使用して、皮膚の状態を詳しく診察する、まったく痛みを伴わない簡単な検査です。

スタッフ紹介



皮膚科部長

はなだ けいじ
花田 圭司

日本皮膚科学会専門医・指導医
日本褥瘡学会認定師
医学博士

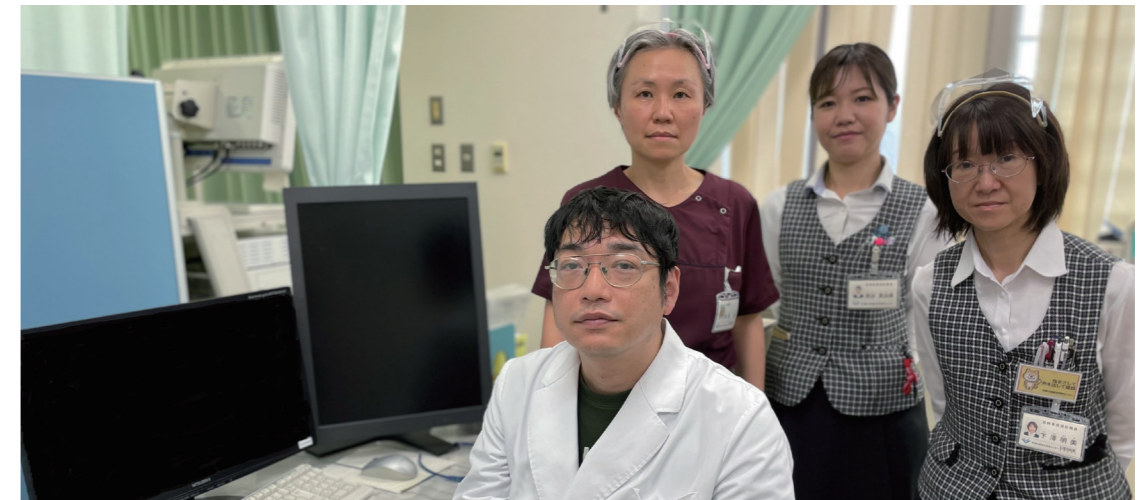
（非常勤）

いしかわ ともむ
石川 朋武

耳鼻咽喉科

耳・鼻・のど、頸部といろんな部位の病気に対する診断・治療を行っています。

耳鼻咽喉科



耳・鼻・咽頭・喉頭・頸部の様々な部位におけるアレルギー・感染による炎症から、難聴・めまいなど感覚器の障害、音声・嚥下障害の検査など幅広く検査や治療を行っています。

主な対象疾患

●耳疾患 外耳炎、中耳炎、難聴、めまい、顔面神経麻痺

●喉頭疾患 喉頭炎、音声障害（しゃがれ声）

●鼻疾患 アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎

●頸部疾患 甲状腺腫、リンパ節炎

●口腔・咽頭疾患 咽頭炎、扁桃炎、口内炎

診療科の特徴

現在は週3回、非常勤医師にて外来診察を担当しております。耳・鼻・のどから喉頭・頸部まで幅広く対応しています。非常勤体制ですので、入院や手術加療は原則として行っておりませんが、炎症性疾患や突発性難聴、顔面神経麻など急性期の疾患は、通院での点滴加療など可能な範囲で対応しています。入院・手術が必要な場合は、近隣の医療機関と連携して対応するようにしています。

●喉頭内視鏡装置

電子スコープとも呼ばれ、主ののどの奥である喉頭・下咽頭の観察に使用します。NBI（狭帯域光観察）システムという機能もついており、通常の内視鏡では見えない小さな癌も発見できることがあります。静止画像も撮影できますので、患者さんにご自分ののどの様子を見て頂くことができます。



●オージオメータ

きこえの検査に使用する機械です。いろいろな周波数（高さ）の音を、音の大きさを変えて、患者さんの聞こえにくい音の高さ、大きさをしらべます。検査結果のグラフを見て、難聴が中耳の病気か内耳の病気か判定することができます。



スタッフ紹介

（非常勤）

たき まさかつ
瀧 正勝

日本耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学会専門医

（非常勤）

きのした しょうた
木下 翔太

日本耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学会専門医

（非常勤）

たかぼたけ れな
高島 伶奈

リハビリテーション科

理学療法部門・作業療法部門・言語聴覚療法部門の各スタッフが早期から良質な訓練プログラムを提供し、患者さんのQOLの維持・向上を目指します。

主な対象疾患

- 脳血管疾患** 脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、パーキンソン病など
- 運動器疾患** 骨折、脱臼、腱・靭帯損傷、人工関節術後、関節リウマチなど
- 呼吸器疾患** 肺気腫、呼吸不全、肺炎、外科術前・術後の呼吸合併症予防など
- 循環器疾患** 心筋梗塞、心不全など
- がん** 乳癌、肺癌、胃癌、大腸癌など

診療科の特徴

入院早期から患者さんの病態に合わせたリハビリテーションを実施します。社会復帰や機能に応じて発症前に近いADLの獲得を目指し患者さんのQOLの維持・向上に取り組んでいます。必要な方には訪問や外来などで退院後のフォローも実施しています。

京都府より山城南園地域リハビリテーション支援センターに指定され、訪問相談事業や地域のリハビリ従事者に対して研修を開催するなどさまざまな活動を行っています。



回復期リハビリテーション病棟

チームで支えるリハビリテーション治療

基本理念

地域住民と一丸となって、住み慣れた地域で暮らせる希望を持ち続ける、質の高いリハビリテーション医療を提供する。

病棟の特徴

病気がけがの状態が安定し、機能や能力の改善が認められる時期に、集中的なリハビリテーション治療を行い、家庭復帰、職業復帰を支援する病棟です。また早期の身体能力回復・ADL(日常生活活動)能力改善に向けて、質の高いリハビリテーション治療を365日提供します。

当該病棟には専用のリハビリテーション室を併設しており、より積極的なリハビリテーション治療の提供が可能となっています。また看護師・セラピスト等の連携が密に行える環境であり、「できる能力」から「している能力」の獲得に繋がっています。

主な対象疾患

回復期リハビリテーション病棟入棟対象者は、厚生労働省が定めており、以下の疾患・状態となります。

対象疾患	最大入院期間
1 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態	150日
2 高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180日
3 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90日
4 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態	90日
5 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日
6 股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日
7 急性心筋梗塞、狭心症発作その他の急性発症した心大血管疾患または手術後の状態	90日



健診センター 人間ドックのご案内

自分のために、家族のために「健康で幸せな生活を守るため定期的な健康診断を」

京都山城総合医療センターの人間ドックは、診療と同じ医療機器を使用し、各科の多数の専門医が関わる事により、高度なレベルでの診断を行っています。

病気の予防・早期発見・早期治療のため、現在の健康状態を把握しましょう。

料金案内 (税込)

●人間ドック 46,200円

- * 追加検診・検査
- ・子宮がん検診…2,200円(産婦人科内診・細胞診)
- ・乳がん検診…5,500円(マンモグラフィ2方向)

●脳ドック 38,500円

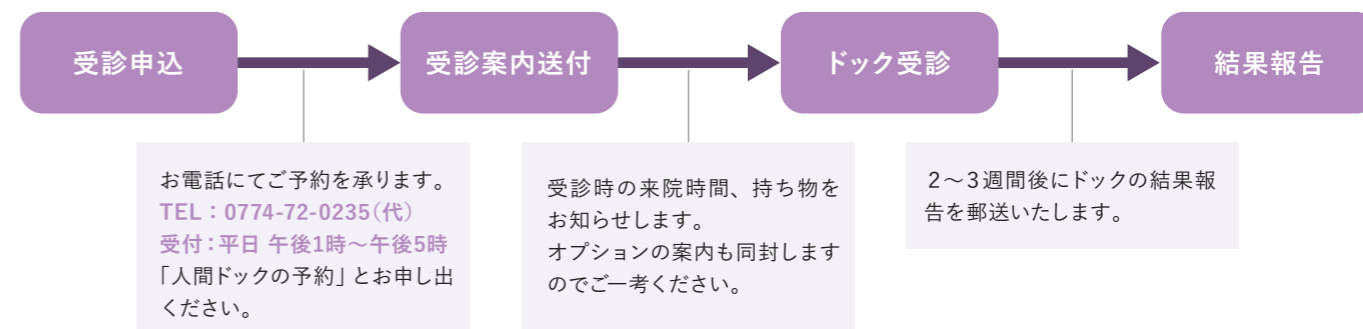
頭部MRI・MRA、頸動脈エコーに採血検査など

●併用ドック 79,200円

人間ドックと脳ドック両方を受けられた場合



受診申込から結果通知まで



人間ドックで見つかる病気

- がん(悪性新生物)** 3大死亡原因に長い間ランクインしている病気です。
- 高脂血症** 現代人が憂慮すべき病気のひとつです。
- 糖尿病** 合併症が起こると非常に危険な病気です。
- 脳卒中** 突然発症することが多く、一度罹ると生命に関わる危険な病気です。
- 心筋梗塞** 日本の死亡原因で高い割合を占めている病気のひとつで、発症の予測がカギとなります。

要精密検査になったらどうしたらよいの?

「要精密検査」と判定された方は、専門科の受診をお勧めします。放置せず、早めに対策し、健康寿命への第一歩を踏み出しましょう!

当院では、たくさん専門医が皆さんの健康をサポートしています。精密検査・治療をご希望の方は当日予約手続きが出来ますのでお申し出ください。

詳しくはホームページをご覧ください。か、健診センターまでお問い合わせください。

健診センターへのお問合せ

☎ 0774-72-0235(代)

受付時間 平日 午後1時~午後5時

HP: <http://www.yamashiro-hp.jp/users/center1.html>

相談窓口のご案内

がん相談支援センター

「がん相談支援センター」では、診断や治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでもがんに関する様々なことを、ソーシャルワーカー（社会福祉士）や専門の看護師に相談することができます。

患者さんやそのご家族だけでなく、当院に通院されていない方や地域の専門職の方など、どなたでも無料、匿名でご利用いただけます。

がんの疑いがあると言われたとき、診断から治療、その後の療養生活、さらには社会復帰と、生活全般にわたって疑問や不安を感じたとき、一人で悩まず、お気軽に「がん相談支援センター」にご相談ください。

※面談をご希望の方は、事前にご連絡をいただけますとスムーズなご案内が可能です。



社会福祉士や専門の看護師に
どなたでも無料・匿名で相談可能

脳卒中相談窓口

脳卒中で当院に入院中や入院歴のある患者さん、そのご家族がご利用いただけるように、令和5年4月「脳卒中相談窓口」を開設いたしました。

脳卒中に関する治療やケア、リハビリテーションのこと、今後の介護や就労、利用が出来る福祉制度のこと、転院先、かかりつけ医のご紹介など、様々な相談に対応させていただきます。

ソーシャルワーカー（社会福祉士）がお話をお伺いして、内容により、医師、看護師、理学療法士、他該当する専門職と連携しながら、支援させていただきます。お気軽にご相談ください。

認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターは、認知症の診断や、認知症にともなうお困り事について相談ができる窓口です。

医療、介護、福祉が連携して認知症患者さんにご家族を支えられるよう、医師、看護師、作業療法士、公認心理師、ソーシャルワーカー（社会福祉士）等がサポートさせていただきます。また、地域の関係機関の皆様とも連携し、認知症があっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう支援していきます。

認知症は早期発見、早期診断、早期介入が大切な疾患です。気になったら遠慮なくご相談ください。



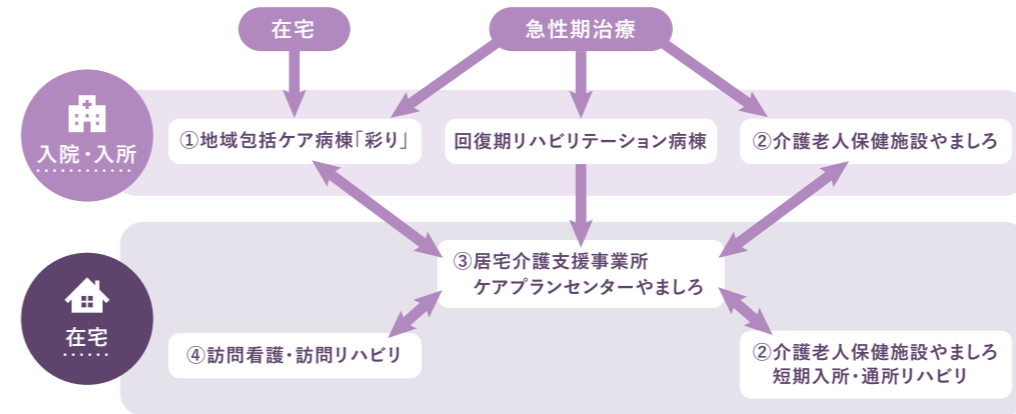
認知症について、医師・看護師・
作業療法士・公認心理師・
社会福祉士等がチームで支援



相談窓口は、
1階正面受付にあります。

地域との連携体制について

私たちは住み慣れた地域で住み続けられる体制づくりに努めています。



※他事業所の介護サービスの利用も調整させていただきます。
※回復期リハビリテーション病棟の詳細はP27に掲載しております。

病院（急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟）、居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、訪問看護、訪問リハビリが一体となって、切れ目のない医療、介護体制を整備しています。

1. 地域包括ケア病棟「彩り（いろどり）」

患者さんが住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、個々の生活に合わせた手助けをする彩り豊かな病棟です。

急性期治療後の患者さんを対象に、様々な専門職が在宅復帰支援をおこなう病棟です。ご家族の介護負担軽減目的で、医療行為により介護施設のショートステイ利用が困難な患者さんの受け入れなど、在宅療養中の患者さんを支える体制を整えています。急性期治療後の退院準備や在宅での介護でお困りの患者さんは、お気軽にご相談ください。



問い合わせ先：0774-73-1818

2. 介護老人保健施設やましろ

住み慣れた地域でいつまでも生活を送るために・・・

介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために医師による医学的管理のもと、看護・介護・リハビリテーション、食事・入浴・レクリエーションなどの日常生活サービスを合わせて提供する施設です。

<事業内容>

- 入所、短期入所、通所リハビリ

<対象者・対象エリア>

- 入所：要介護1～要介護5
- 短期入所：要支援1～要介護5
- 通所リハビリ：要支援1～要介護5
- 木津川市、和束町、笠置町、南山城村、精華町



問い合わせ先：0774-73-0359

3. 居宅介護支援事業所 ケアプランセンターやましろ

皆様が安心してこの地域で住み続けられるお手伝いをさせていただきます。

令和4年4月、新たな事業として開設しました。

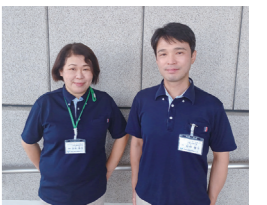
<事業内容>

- 要介護認定の代行申請
- 介護を必要とする方やご家族の相談と援助
- 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- 介護サービス提供事業所、医療機関、市町村等との連絡や調整

<対象者・対象エリア>

- 要介護1～要介護5と認定された方
- 木津川市、和束町、笠置町、南山城村、精華町

問い合わせ先：0774-71-0039



4. 訪問看護・訪問リハビリ

自宅で患者さんが自分らしく生活できるようサポートすることが一番のやりがいです。

訪問看護では、急性期病院の特徴から医療度の高い患者さんの訪問看護を、訪問リハビリでは退院後の日常生活の自立と社会参加を目的とした在宅リハビリを行っています。医師や様々な在宅チームと連携し、住み慣れた自宅で患者さんらしい生活が過ごせるようサポートし、心に寄り添える支援を目指しています。

<対象者・対象エリア>

- 医療度の高い方
- 要支援1～要介護5と認定された方
- 木津川市、和束町、笠置町、南山城村、精華町



問い合わせ先：0774-72-0235（代表）